

ありがとうございました

賛助会員名簿(敬称略) (平成16年3月31日現在)

<個人会員>青木智子,青木美智恵,青柳孝一,青柳文恵,青柳誠,赤松浩,秋山政人,阿久津澄子,浅井麗子,安尻善永,安達修,安達哲郎,阿部早苗,阿部竜也,阿部俊幸,阿部裕孝,荒井千春,新井正子,荒川正昭,新木恵子,荒木律子,飯沼貴美江,井浦裕子,五十嵐榮,五十嵐大介,五十嵐智理,五十嵐務,五十嵐均,生田恵美子,池田直司,石川久雄,石黒敦之,石崎美津子,石田賢一,石田芳英,石附由美子,石見武夫,伊藤浩,伊藤亨,糸川豊,井上修,猪貞子,今井久彌,岩佐正,岩野年男,殷熙安,植木康之,上杉雅子,上杉義広,宇治雅浩,臼杵公,薄田芳丸,内山聖,榎木キノ,大関浩也,大竹佳子,大竹幸一,太田隆,大野康彦,大村紘一,大森美智子,大矢直子,大矢肇,小川久美子,小熊美智子,小沢千鶴,小野良夫,小原健司,甲斐幸子,加賀節子,笠原道子,風間昌平,笠間清一,片桐憲治,片桐幹雄,片桐康博,片所秀雄,勝間修二,加藤千栄子,加藤浩昭,金子則子,金子優,梶沢節子,釜田英一,鴨居桂子,賀谷正,柄澤良,河内衛,河内一美,木村信策,木村満里子,清塚裕子,鯨岡克法,工藤聡,國井亮祐,車田茂徳,桑原光矢,桑原義秀,下條文武,五位野弘,小坂正一,古嶋輝男,小島美春,小島禮子,児玉テル子,牛腸信夫,後藤まり子,小濱恵子,小林健治,小林進一郎,小林孝,小林次雄,小林裕恵,小林良雄,小林良雄,小堀英子,駒形ヨシ,小山歌子,小山一則,権平範子,斉藤京子,斉藤恒利,齊藤智,齋藤和英,酒井信治,坂井宏子,坂田真知子,櫻井明子,佐々木隆,佐藤文子,佐藤和夫,佐藤興吉,佐藤保,佐藤志保,佐藤修一,佐藤淳子,佐藤眞吉,佐藤達夫,佐藤洋,佐藤比呂美,佐野浩三,佐野哲夫,信田弘,渋谷恵太,渋谷優子,島田久基,島津智子,清水広記,志村勇,原ヨシ子,下村宣子,白川紀子,神保和男,杉田洋子,杉田和久,鈴木一恵,鈴木正司,鈴木孝,鈴木忠二,鈴木昌也,関崎桂,関根康,関原安,関谷啓太郎,曾我三千男,園田裕久,園部有信,田井英子,高島悟,高田盛太,高德幸男,高野美千代,高橋和己,高橋公太,高橋茂,高橋恒雄,高橋真知子,高畑慶一郎,高宮治生,滝川正義,武井みあき,竹内一成,竹内正喜,竹沢竹義,竹中裕樹,田中勝治,田中新一郎,田中直美,田中政則,棚橋忠,谷川隆朔,谷川貴,建部ミヤ子,玉井章広,田村正一,田村芳昭,築井麻朱実,土田直美,燕紀子,遠山郁子,富樫克裕,杉倉恵理,豊島キヨシ,内藤恒敏,中川邦夫,中川悟,長崎浩爾,長沢京子,長沢忠雄,永瀬吉彦,中野實,中浜千鶴,永松恵子,中村源治,中村幸一,中村潤一郎,中村勉,中村敏子,中山里子,南雲佳代子,成田一衛,難波彰司,難波秀道,西方好,西慎一,西山勉,西山秀代,西山美枝,野口晃,野崎幸一,野島一枝,野村聡子,羽賀早苗,橋本祐子,長谷川川子,長谷川琴江,長谷川裕美,長谷川恵,羽二生真理子,馬場光雄,早川キヨ,林千賀子,半澤杏子,樋口芳子,平石信一郎,平沢由平,平田孝栄,深川光俊,福井俊司,藤井春男,藤田弘一,藤田大輔,布施和博,布施政子,古川明,古川恵理子,帆刈久美,星一男,本田信夫,本間祥子,真島和徳,松井直子,松尾真輔,松田澄枝,松田隆夫,松原和也,松村直道,丸田勲,丸山敏男,味方伸幸,三上昇,三澤千恵子,水口淳子,水澤隆樹,水間明子,皆川武,峯田和彦,宮川芳一,宮下晴美,武藤謙介,村山登,森谷直美,諸橋和子,八木真佐子,柳屋純子,矢野繁,八幡健二,山口孝平,山田一久,山田勉,山田一二美,山田洋,山田洋子,山本正,山本正男,山本幸雄,山本吉男,湯浅保子,横山美穂,吉川澄雄,吉田法子,吉田正嘉,吉田和清,吉山直樹,米山正明,若井静子,若杉元,若月俊二,鷲津勇,鷲津徹,渡辺朝次,渡辺篤子,渡辺一徹,渡辺和仁,渡辺健吾,渡辺健太,渡辺利雄,渡辺とも子,渡辺奈緒子,渡辺秀昭,渡辺誠,渡辺勝,渡辺美智子,渡辺竜助,綿萩節子,渡部映子,和平秀樹,他匿名希望2名

個人会員 329名 計 679,000円

<法人会員> 青柳医院,池田医療電機,糸魚川市西頸城郡医師会,糸魚川総合病院,糸魚川病院腎友会,魚沼病院,越後吉田ライオンズクラブ,大森内科医院,大森八千代会,小千谷市北魚沼郡医師会,小千谷腎友会,小千谷総合病院,下越病院,下越病院腎友会,柏崎市刈羽郡医師会,柏崎薬剤師会,カナイ医療器株式会社,亀田第一病院,刈羽郡総合病院,喜多町診療所,喜多町診療所朋友会,木戸病院,黒川病院,黒崎病院,けいなん総合病院,健康医学予防協会,県立小出病院腎友会,県立中央病院腎友会,甲田内科クリニック,五泉六島クリニック,五泉六島友の会,五月会,佐渡腎友会,佐渡総合病院,三市中蒲東蒲医師会,三条市医師会,三条総合病院,三島郡医師会,三島郡医師会,山東腎友会,山東第二医院,山北徳友会,新発田市豊栄市北蒲原郡医師会,上越医師会,上越総合病院,白根緑ヶ丘病院,信友会,信楽園西川診療所,信楽園病院,水原郷病院,水原郷病院腎友会,曾田内科医院,第一製薬,田代消化器科病院,立川メディカルセンター,田宮病院,知命堂病院,中外製薬,燕市医師会,栃尾郷病院,栃尾市古志郡医師会,とやの中央病院,豊栄病院腎友会,直江津ロータリークラブ,長岡市医師会,長岡赤十字病院,長岡赤十字病院腎臓病患者友の会,長岡中央総合病院,長岡東ロータリークラブ,長岡悠久ライオンズクラブ,中条病院,南部郷厚生病院,南部郷総合病院,新潟移植者の会(三条市),新潟運輸(株)観光部KIJトラベル,新潟県医師会,新潟県医薬品卸組合,新潟県栄養士会,新潟県介護老人保健施設協会,新潟県看護協会,新潟健康管理協会,新潟県歯科衛生士会,新潟県腎臓病患者友の会,新潟県成人病予防協会,新潟県接骨師会,新潟県放射線技師会,新潟県保健衛生センター,新潟県薬事協会,新潟県理学療法士会,新潟県臨床衛生検査技師会,新潟県労働衛生医学協会,新潟こぼり病院,新潟市民病院,新潟清陵大学,新潟大学医学部第二内科,新潟大学大学院医歯学総合研究科内部環境医学講座(第二内科),新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野,新潟脳外科病院,新潟南病院,新潟臨港総合病院,新潟労災病院,新潟労災病院(看護部),西蒲中央病院,西蒲原郡医師会,姫川病院,ファイザー製薬株式会社,扶桑薬品工業株式会社,藤沢薬品工業株式会社,富士タクシー,舞平クリニック,松浜病院,三浦内科医院,源川医科器械株式会社,村上記念病院,村上市岩船郡医師会,村上腎友会,村上総合病院,メディス,森田内科医院,安田ライオンズクラブ,横越ライオンズクラブ,麓病院,渡辺内科医院腎友会,渡辺内科腎友会

法人会員 125団体 計 1,860,000円

財団法人 新潟県臓器移植推進財団 事務局

〒950-8570 新潟市新光町4番地1 県庁健康対策課内 TEL&FAX:025-283-4880
メールアドレス n-banku@smail.plala.or.jp

創刊号



—臓器移植はあなたの意志をつなぎます—

新潟県臓器移植推進財団だより

平成16年8月1日(創刊号)発行 財団法人 新潟県臓器移植推進財団

新潟市新光町4番地1(新潟県福祉保健部健康対策課内) TEL:025-283-4880 発行人:荒川正昭

臓器移植推進財団 “新たな出発”



財団法人 新潟県臓器移植推進財団 理事長 荒川 正昭

本年4月、新潟県腎臓バンクと新潟眼球銀行が合併した形で、新しく新潟県臓器移植推進財団が発足しました。腎臓バンクは、昭和63年に設立され、腎移植の啓蒙と腎提供の意思のある方々の登録を行ってきました。臓器移植法の制定後は、登録事業はなくなりましたが、臓器提供意思表示カードの普及も含めて、臓器移植全般の啓発に力を入れています。眼球銀行の歴史は長く、昭和41年に設立され、角膜提供の意思の

ある方々の登録を行い、角膜移植の推進に努めてきました。臓器移植法の制定にともなって、生前に提供の意思表示をされた方々から、脳死状態において、腎、角膜だけでなく、心、肺、肝、脾、小腸などが頂けるようになりました。しかし、実際に脳死下で提供されたのはわずか29例(平成16年7月1日現在)に過ぎません。心臓死からの移植が可能な腎、角膜の移植も決して多くありません。本県では、生体腎、角膜の移植は全国有数の実績を持っていますが、最近では生体肝移植も意欲的に行われています。私たちは、目的がほぼ同一の両財団を統合し、それぞれの機能をいっそう発展させることを期して、県当局をはじめ、関係各方面と協議してきましたが、ここに新しい財団が誕生したのであります。私たちの善意による臓器の提供を待ち望んでいる患者さんのために、一人でも多くの人たちに意思表示カードを持っていただきたいと願い、活動を始めています。県民の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

合併後の角膜移植について



財団法人 新潟県臓器移植推進財団 副理事長 阿部 春樹

角膜移植は、昭和33年に「角膜移植に関する法律」が制定され、その後昭和54年の「角膜及び腎臓の移植に関する法律」を経て、現在は平成9年の「臓器の移植に関する法律」(臓器移植法)により実施されています。この臓器移植法には、臓器提供を受ける際の要件ならびに安全なあっせんなどの規定があるが、その目的は、「移植医療の適正な実施」、「臓器売買の禁止」、「提供の意思の尊重と任意の提供」および「被移植者への公平な機会の賦与」に要約することができます。最初の法律の制定以来、実に40数年が経過し、現在全国で53のアイバンクが活動していますが、依然として提供される角膜の絶対数の不足が大きな問題です。最近の情報によれば、平成15年3月末でわが国では角膜移植の待機患者が約5000人おり、提供眼球数は年間約1500眼といわれています。すなわち、待機患者数が年間の提供眼球数の約3.5倍です。このことは、

今すぐ角膜移植手術を受けたいと申し込んでも実際に角膜移植が受けられるのは3~4年先ということを意味しています。財団法人新潟眼球銀行は、昭和41年に角膜移植術により視力障害者の視力回復に資するとともに、眼の衛生思想の普及と向上を図ることを目的として設立され、今日まで約38年間にわたって角膜移植に関する啓発普及、眼球提供者の登録や提供時のあっせんなどを推進してまいりました。この間に364人の方々から眼球のご提供をいただき、526人の方々が角膜の移植手術を受けて、視力を回復することができました。しかしながら近年のわが国の厳しい財政状況を受け、新潟県も財源不足のため福祉予算についても例外なく削減せざるを得ない状況となりました。そこで財政的な問題だけではなく、臓器移植を総合的に進めるために、財団法人新潟眼球銀行は、平成16年3月31日をもって解散し、当財団の目的である「新潟県の社会福祉に寄与すること」をさらに発展的、効果的に達成していくために、財団法人新潟県腎臓バンクと合併し、平成16年4月1日から財団法人新潟県臓器移植推進財団として、角膜移植と腎臓移植を含む総合的、一元的な臓器移植の推進を図ることになりました。今後は、新潟県臓器移植推進財団という新しい組織のもとで、ドナー不足の解消に取り組むとともに、角膜移植により、一人でも多くの視覚障害者に光を与えてゆけるよう努力する所存であります。県民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。